

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書

令和5年5月26日

申請区分	一般助成型	課題番号	A20104
研究課題名	神戸市域に所在する文書群の調査・活用・公開に関する研究		
研究期間	令和2年度～令和4年度		
研究代表者	氏名	井上 舞	
	大学等	国立大学法人神戸大学	
交付決定額(研究期間全体)	2,786,000円		

○研究成果の概要（400字以内）

本研究では、①神戸市北区を中心とした文書群の所在調査、②既出資料の内容調査および公開、に取り組んだ。

①について、コロナ禍のため当初予定していた悉皆調査を行うことはできなかったが、神戸市文化スポーツ局文化財課、および企画調整局、行政財局（神戸市文書館）と協力し、長尾・八多・淡河・有野・山田地区において8件の調査を実施し、必要に応じて目録の作成や保全処置、地域住民と協働したワークショップなどを行った。一連の活動を通じて、地域に残る歴史資料の現状と課題を明らかにし、今後の保全・活用に向けた動きにつなげることができた。

②については、②-1：神戸大学社会科学系図書館所蔵の「摂津国八部郡花隈村村上家文書」の調査に取り組み、その成果と資料翻刻を報告書にまとめた。また、②-2：神戸大学文学部古文書室所蔵の「淡河北僧尾村文書」について、今後の活用を見越して整理作業を行い、解題を付して目録を作成・発行した。

○研究成果の学術的意義や社会的意義（200字以内）

神戸市域所在の歴史資料について、これまで確認されていなかった文書群、および既調査ながらその後の追跡調査が行われていなかった文書群の所在情報や調査成果を市と共有することで、資料防災を含めた、今後の文書群の保全・活用に資することができた。

また、大学所蔵の文書群の学術的調査を通じて、神戸市域の歴史像について新たな知見を提示するとともに、報告書等の作成によって、市民が利用しやすい形を提供することができた。

1. 研究開始当初の背景

近年、全国的な傾向として、急激な地域社会の変化や、頻発する自然災害、また近年では新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の歴史文化の継承が困難な状況が発生している。

神戸市においても、広い市域において、人口流出による地域の歴史文化の担い手の減少や、急激な都市開発による景観の変化などの諸課題を抱えている。さらに、古い家の取り壊しや、近年のいわゆる「コロナ断捨離」等によって、それまで地域に残されてきた歴史資料が廃棄されたり、オークションに出品されるという状況も発生している。

地域の歴史文化を守り、継承していくためには、まずその基盤となる歴史資料の保全・活用を図る必要がある。加えて、地域社会のあり方が変化しつつある今、より効果的な保全・活用の方法を模索していく必要がある。そこで本研究では、地域歴史文化の基礎となる歴史資料のうち、特に文献資料に主眼を置き、神戸市域における文書群の残存状況を確認した上で、地域住民が主体となって資料を守っていく体制作りについて検討する。あわせて神戸市の関係部局とも協力し、文書の所在情報を共有することで、発災時の速やかな資料所在確認や被災資料の救出を可能にする体制作りを目指す。

また、地域の歴史文化について理解・関心を深めてもらうため、資料の分析を通じて具体的な地域の

歴史像を提示していく。

2. 研究の目的

本研究では、人口減少や急激な都市開発による景観の変化等により、地域歴史資料が散逸することを防ぎ、より豊かな地域社会の存続を目指すため、地域住民を核とした地域歴史文化継承のための手法を確立することを目的とする。

具体的には、①地域での悉皆調査を通じて、地域における歴史文化の担い手を育成し、これにより資料の散逸を防ぐ、②神戸市域に所在する歴史資料を活用し、内容調査を通じて具体的な地域の歴史像を提示することで、地域住民に歴史文化に対する理解・関心を深めてもらう、③①・②の成果をふまえて、調査成果をより充実した形で地域住民と共有し、利用しやすい形を作るための新たな保全・活用・公開の手法を構築する。

3. 研究の方法

本研究では、①地域所在資料（文書群）の調査と、②学内所蔵文書の調査と活用に取り組んだ。

①は神戸市北区をフィールドとした所在確認調査を実施した。当初計画では悉皆調査を行う予定であったが、コロナ禍のため叶わず、連携部局からの情報提供を受けて調査を行う形に切り替えた。調査では資料の状態に応じて、現状記録・目録作成・写真撮影を行った。また、一部の文書群については、地域住民を交えたワークショップを開催し、ともに資料整理にあたった。

②については、神戸大学社会科学系図書館所蔵の「摂津国八部郡花隈村村上家文書」について、近世の西摂地域社会の様相がうかがえる資料の分析を中心に行った。また、市民が同文書にアクセスしやすくするために、調査した文書を翻刻し報告書にまとめた。また、神戸大学文学部古文書室所蔵の「淡河北僧尾村文書」について、総点数 859 点を目録化し、解題を付した。その他、整理が完了しなかったものの、摂津国八部郡の横山家文書の調査・整理に取り組んだ。

また、①・②の調査・研究を通じて、神戸市域における文書群の継承にかかる課題を抽出し、連携部局等と検討会を行った。

4. 研究成果

[報告書]

- ・井上舞「田中家文書目録（2021 年度調査分）付調査経緯報告書」令和 4 年 4 月
- ・木村修二「淡河北僧尾村文書目録」令和 5 年 2 月
- ・松本充弘「近世西摂地域の村政と助郷」令和 5 年 2 月

[講演会等]

- ・井上舞「上谷上天満宮 歌舞伎背景下張り文書の調査」、山田民俗文化保存会主催「山田地域の文化財について一講演と意見交換一」、令和 4 年 8 月 2 日、於北区役所山田出張所
- ・松本充弘「明和上知後の兵庫津と助郷」、尼崎郷土史研究会主催歴史講演会、令和 4 年 9 月 15 日、於尼崎市立中央来た生涯学習プラザ

<引用文献>

※大学発アーバンイノベーション神戸による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、神戸市の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。